

2024

隣保館だより

11月号



NO. 372

発行・編集

鹿沼市隣保館

鹿沼市万町 931-1

Tel.0289-64-4776



人権週間（12月4日～10日）

1948年（昭和23年）12月10日、国際連合第3回総会において全ての人民と全ての国が達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」が採択されました。

世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、人権保障の目的や基準を初めて国際法にうたった画期的なものです。採択日である12月10日は、国連が定めた「人権デー」となり、日本では、この日を最終日とする1週間を「人権週間」と定め、全国的に人権啓発活動を展開しています。部落問題（同和問題）に対する不当な差別や偏見・いじめや虐待・障がいのある人や高齢者・外国人・マイノリティーといった多様な人権問題を解決するには一人一人がお互いの人権を尊重することが不可欠です。「誰か」のことじゃない自分の事ととらえ、人権週間をきっかけに人権について考えてみませんか。

※世界人権宣言…近代的な人権宣言は、18世紀末の近代市民革命とともに誕生しました。フランスの人権宣言（1789年）は、その代表例です。ナチスドイツによる第2次世界大戦、米国による広島・長崎への原爆投下等20世紀に入っても人権は踏みにじられ多くの人々が命を奪われました。その反省から、国際連合がつけられました。

そこで、各国の代表者たちは、世界の平和を実現するために、世界各国が協力して、人権を守る努力をしなければならないということが、世界人権宣言によって明らかに示されました。

「日本初の人権宣言」水平社宣言とは

1922年（大正11年3月3日）、京都市にある岡崎公会堂に部落差別に苦しむ人々が全国各地から集まり、差別からの解放と人権の自由・平等の権利を自らの手で取り戻そうと「全国水平社」が創立されました。その創立大会に参加した3,000人の前で読み上げられた宣言を「水平社宣言」と言います。

この宣言には、いわれなき差別や偏見に苦しむ人々の気持ちを世の中に知らせるとともに、全ての人々にとって自由で平等な社会を実現するための内容がうたわれています。

全国水平社の「水平社」は「人間は生まれながらにして平等な存在である」という理念から名付けられ、宣言の最後に書かれた「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という言葉には、「人間を尊重し、大切にしようことで差別はなくして行ける」という願いが込められています。

水平社宣言は、部落差別からの解放だけではなく、あらゆる差別からの解放をめざしていることから「日本で最初の人権宣言」「日本で唯一の人権宣言」とも言われています。



※水平社宣言（一部要約）

全国に散在する部落の人々よ、団結せよ。ここにわれわれが人間を尊重することによって、自らを解決しようとする運動を起こしたのは当然である。われわれは心から人生の熱と光を求めるものである。水平社はこうして生まれた。人の世に熱あれ、人間に光あれ。

みんなの人権 110 番（全国共通人権相談ダイヤル）

差別や虐待、ハラスメント、インターネット上の誹謗中傷など、様々な人権問題についての相談を受け付ける相談電話です。相談は、法務局職員または人権擁護委員がお受けします。秘密は厳守します。

ひとりで悩まず相談してください！

0570-003-110

この電話はおかけになった場所の最寄りの法務局・地方法務局につながります。（有料）

■受付時間 平日午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分



鹿沼の民話



10月10日（木）第9回高齢者ふれあい事業「鹿沼の民話」を「鹿沼民話の会」の協力により、参加者24名で行いました。

はじめに、作務衣姿の会の皆さんと参加者が一緒になって「長生き音頭」を歌いました。年代別の歌詞がユニークで、とても楽しく元気になる歌でした。

鹿沼に伝わる民話「ねこがた嫁さん」、「大魚物語」、「みかわぶちのなます」や紙芝居では、地元言葉の語り口が笑いを誘っていました。

最後に両手を使って、もも太郎♪やきび団子♪を歌いました。「あんたがたどこさ」の曲に合わせて、お手玉を隣の人に渡すというゲームでは、両手の手指を使う動作が脳トレにもなりました。

皆さん、終始にこやかに楽しく過ごしていました。